2022年度の授業

受講者数は1クォーターでは67人、3クォーターでは399人で、合計466人でした。今年度も人数にばらつきがあるものの、すべての学部から学生が参加していました。。

各グループは、次のような地域課題に取り組みました。

地域における人口減少／住みやすい町作り／香川県の若者流出対策／若者が地方から都市に転出している問題／地方の企業に対するアピール支援／障がい者雇用／空き家対策

受講者の感想

- D、R、Iそれぞれが果たす役割を知ることができた。また、それを地域課題の解決に生かすことができたと思う。同じグループになった人が全員違う学部であったが、みんなと協力してパワーポイントを作ったり、発表のための準備をしたりすることで仲が深まったことも、この授業を受けてよかったと思える点である。（医学部1年生）
- DRIを使って物事を考えていくことができるようになったと感じます。また、具体的な地域課題やその解決策を考えるにあたってグループワークを行なったおかげで、自分一人では考えつかないような意見や物の見方など、新しい視点を得ることができました。（経済学部1年生）
- 物事を多角的に捉える力、またグループでの発表ではグループ全員の意見をまとめる力を養えた。グループ発表では、発表する側として、どのようなスライドを作ったらより自分たちの地域課題解決策が伝わるだろうかとスライドやスピーチ内容を考えながら作ることができた点において、将来他の講義でも必要な能力が培うことがきでた。また、発表を聞く側として、自分では思い浮かばなかったような解決策を聞けたこと、そして現代社会が抱える地域課題や地域活性化についてより多く知れたことが良かった。（教育学部1年生）